

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年 9月30日更新

事務事業名		熊本県物産振興協会参画事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	3	働く人々が輝き続けるまちづくり			所属部	産業振興部	課長名	古庄 一也
	施策	12	商工業の振興			所属課	商工振興課	担当者名	中村 公彦
	基本事業	34	生産・販売力の強化			所属班	地域ブランド推進室	(内線)	1274
予算科目		会計一般	款7	項1	目2	事業連番11461	法令根拠		
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)		

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	振興協会への参画によって、市内物産のPRに寄与する。 平成5年4月1日、熊本県物産振興協会の設立に伴い市町村の取組みが始まった。 昭和38年観光基本法～昭和39年物産振興協会任意団体を結成。 平成18年の合併により負担金が5万円から10万円へ変更となった。
【業務の流れ】	請求書受付、支払及び振興協会からの調査依頼への回答 物産品の宣伝、展示等の事業展開に必要な情報の提供を受ける。
【主な予算費目】	負担金
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	地元特産品の全国展開に向けてアンテナショップ等への出品希望があった。

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
請求書受付、支払 物産品の宣伝、展示等の事業展開に必要な情報の提供を受ける。 調査及び回答		平成22年度と同じ
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
⇒ ア 振興協会の研修会、講習会の開催回数	回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
⇒ ア 熊本県物産振興協会	社	⇒ ア 振興協会加盟団体数
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
⇒ ア 熊本県物産振興協会加盟団体に多くの情報が提供され、スムーズな運営を図ることができる。	回	⇒ ア 振興協会主催事業への出席回数
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		
物産品の宣伝、展示等の事業展開に必要な情報の提供を受けるため、協会主催事業へ参加するので、この指標を設定した。協会への参画事業なので、目標値は例年どおりとした。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 回		5	5	5	5	5	5	5	
② 対象指標	ア 社		410	515	500	509	500	500	500	
③ 成果指標	ア 回		4	4	4	4	4	4	4	
投資 入費 量	事業 費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	人件 費	一般財源	千円	100	100	100	100	100	100	
		(A) 事業費計	千円	100	100	100	100	100	100	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	100	100	100	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	3	3	3	1	1	3	
	人件 費	延べ業務時間	時間	25	30	25	20	20	25	
		(B) 人件費計	千円	100	119	99	82	82	103	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	200	219	199	182	182	203	

事務事業名	熊本県物産振興協会参画事業	所属部	産業振興部	所属課	商工振興課
-------	---------------	-----	-------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

*原則は22年度の実績評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 協会主催の会議等へ参加し、情報収集ができた。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 協会主催事業への参加は、日程調整ができれば可能である。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 日程調整をし振興協会主催事業へ参画し、多くの情報を市内企業へ提供をする。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類似する事務がない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 他市町村とも同額の負担であるので削減の余地なし。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 負担金の支出と研修会への参加であり削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 振興協会がスムーズに運営されることにより、合志市が物産情報の提供を受けることができ、合志市内の不特定多数の人々に情報発信することができるため公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 (社)熊本県物産振興協会の設立経緯から、行政の役割である。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

観光物産に関する活動や情報収集は市単独では困難なので、今後も協会に参加して情報提供を受けることが有効である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 例年同様、継続的に会議等で情報を収集する。		(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																							